

環境科学科2年生

大雨を想定した災害図上訓練(DIG)



大雨想定、危険箇所を周知

飛騨高山高で災害図上訓練

災害時に身の回りの危険な場所について知る防災講習会が、高山市山田町の飛騨高山高校山田キャンパスで開かれ、環境科学科2年生28人が災害図上訓練(DIG)に取り組んだ。

同科が毎年、岐阜大工学部付属インフラマネジメント技術研究センター、社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)、高山市民防災研究会、高山国道事務所の協力で開いている。

航空写真を見ながら危険な場所を確認する生徒ら。高山市山田町、飛騨高山高校山田キャンパス

生徒らは、大雨による災害を想定し、市内の航空写真やハザードマップを見ながら自宅や通学路、よく行く店の周辺の地形などを確認。山や川の近くには、危険箇所であることを示す赤いシールや付箋を貼っていた。坂本こころさん(17)は「市内には山や川が多く、土砂崩れや浸水が起こりうる場所がたくさんあることに気付いた。自宅周辺だけでなく、よく行く場所の近くの避難所も調べておきたい」と話した。

(山田雄大)

